

## カレッジ だより



### 15期生350人がカレッジ卒業

第15期生(22年度)の卒業式が3月18日、カレッジホールで行われました。東日本大震災の直後でもあり、黙祷で亡くなった方の冥福を祈って開会。今井鎮雄学長の式辞も、この大地震にふれ「大変なことが起こった。阪神大震災を思い出した人も多いでしょう。カレッジのボランティア活動はあの震災が原点です……」などと語りかけました。22年度の卒業生は350人。コース別では福祉46人、国際88人、生環83人、美工36人、音文31人、園芸31人、食文35人となっています。(写真は講師やインストラクターの激励を受けて教室で卒業証書を受け取る生環コース)

### 雨の入学式 420人が仲間に

第18期生420人の入学式が4月8日、カレッジホールで行われました。東日本大震災で亡くなった方々に黙祷をささげた後、今井鎮雄学長が「大津波で何もなくなり、原発汚染も広がって世界中で騒ぎになっている。危機に瀕している日本をどうすればいいのか。皆さんに考えてほしい」と訴えました。この日は雨天だったので、記念撮影はホール内で行われました。コース別入学者は健福80人・国際96人・生環85人・美工39人・音文40人・園芸40人・食文40人です。

### G学習の合同発表会

15期生のグループ学習合同発表会が2月28日、カレッジホールで開催され、各コースの先輩、後輩たちも駆けつけ、終日、熱心に耳を傾けていました。発表は午前10時の音文専攻から始まり、休憩を挟んで16時の生環コースまで、順次行なわれ、講師からは的確なコメントがありました。ロビーでは28日から3月18日まで、美術専攻生の卒業作品が展示されました。各コースの発表テーマは次のとおりです。  
【音文専攻】 和太鼓グループ パーカッショングループ 全員合唱 【国際コース】 天空鉄道で行くチベット 俘虜収容所からの国際交流 台湾に貢

献した日本人・八田與一【食文専攻】 豆で楽しく・食べて元気 お酢と遊ぼう【福祉コース】 心に響く音楽 一笑健命 公園で美しい自然を伝えよう【園芸専攻】 ピーマンの栽培 サトイモの栽培 ナスの栽培【生環コース】 神戸人の気質を探る 神戸・西国街道歴史風景めぐり 須磨離宮公園内岡崎山の整備

カレッジ事務局人事(4月1日・敬称略)

【転出】北尾美雪(教務リーダー)神戸市社会福祉協議会へ 加藤美智子(生環担当)振興協会へ【転入】筒崎康孝(振興協会から、教務リーダーに)【新任】絹川雅子(スポーツ担当)【交代】加藤智代(生環担当)

### 卒業生が講師に、ふたばシニア塾

シルバーカレッジ卒業生が講師を務めるシニア塾が3月から「市立地域人材支援センター」(長田区)でスタートしました。13日には野村勝氏(福祉11)が「消防士から見た阪神大震災」のテーマで講演。2回目の27日は次のような3講座がありました。最初は「仲間づくりのゲーム」。井上善道氏(食文5)の指導で、初対面の人同士でも打ち解けることができるゲームを学びました。2番目は中沢千枝子さん(音文6)の「ハワイアンフラ」。



ゆったりとしたハワイアンのメロディーに乗って、参加者も一緒に踊りました(写真)。

午後からは「コウノトリを育む田んぼづくり」のテーマで、村尾三樹雄氏(生環11)、南形徹氏(生環14)が講演しました。「ノリカちゃんとコウノトリ」というお話ビデオを見ながら、南形氏がコウノトリ保護にける豊岡の現状やエサ場となる田んぼ作りの大切さを紹介。自然農法を実践している村尾氏は、農薬を使わない田んぼ作りの難しさなどを、スライドで説明。もっとご飯を食べようと訴えて、参加者から大きな拍手をあげました。26、27日は人材センターを会場に「まちの文化祭」が開かれており、多彩な行事や模擬店でにぎわいました。

同センターは22年秋、旧二葉小学校跡に設けられ、市民向けのイ各種イベントをやっています。シニア塾は、カレッジ卒業生が講師を務めており、中山喜統マネージャーは「来年度も講師を募って、継続したい。ぜひ、応募してください」と語っています。